

# 男性性研究・男性学研究会

代表・社会学研究科 M2 智羽美月

## 研究会目的

男性性研究・男性学に対する日本における研究の現在地を考察し、学問分野全体に対して今後の課題点を提示することを目的として研究会を設立する。

## 研究の背景

「男性性研究・男性学においては、様々な男性性に対する概念や理論が展開されてきた。一方で広がりを見せる男性性に対するアプローチにおける課題点の総括的な提示が今後の男性性研究・男性学に対する問題点として存在するのではないだろうか。本研究会はこのように日本における男性性研究・男性学に課されている課題点を文献の検討を提示をすることを目的として研究を実施する。また、それらの課題点を包括した今後の男性性研究・男性学のあり方についてどのような考察を述べるができるのかという点についても問題意識として共有する。

## 研究方法

男性性研究の中心書籍である『マスキュリティーズー男性性の社会科学』を輪読する。多様な専門分野の院生の視点から自身の研究分野と男性性研究との連関についてディスカッションを検討する。

## 研究会活動

### ①輪読会の実施

コロナ禍の影響もありオンラインも併用しながら6回の輪読会を実施した。また、またメンバーの実施した調査結果についても男性性研究の視点からの検討を行うなど、男性性研究と自身の研究の関連性についても検討した。

### ②成果報告

メンバー構成上、多様な学問分野において個人報告がされた。「ジェンダー系の授業を受けた経験のある男子学生へのインタビュー調査」  
WAN上野ゼミ ジェンダー教育ネットワーク発展的研究会、2022年9月22日など



## 結論

本研究会にて提示された日本における男性性研究・男性学に課されている課題点は以下の通りになる。  
歴史的な観点からの男性性のありかたと今日の男性性研究との関連について明らかにすること。本研究会のメンバーの専攻分野は多岐に渡るが、特に各専攻分野と当事者研究を中心とした日本の男性性研究との関連について多くの議論的となった。以下に記すように、今後も各専攻分野と男性性研究・男性学との関連について意識をしていく必要があるだろう。

智羽: 女性研究者が男性性研究を実施する場合の男性研究の視点からの研究の蓄積が望まれる。

田中: 男性性について、現在の認識を過去に投影するのではなく、歴史的過程として捉えることが重要である。

玉木: 男性の経験が家父長制にどのように関与するのか捉える必要がある。